

芦屋市における過去5年間の交通事故発生状況(平成27年～令和元年)  
及び令和元年の交通事故発生状況検証

## 死傷者数等合計

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和元年 (兵庫県)
死者数[名]	0	1	0	0	1	138
傷者数[名]	383	380	404	378	382	27,501
事故発生件数[件]	319	322	351	319	332	22,896

## 令和元年 事故類型(第1当事者・第2当事者)[件]

事故類型	当事者種別 (第1当事者)	合計	当事者種別(第2当事者)						
			自転車	自動車	相手なし	対象外	バイク・原付	物件等	歩行者
車両相互	自転車	22	6	13		1	2		
	自動車	231	57	107			67		
	バイク・原付	7	4	3					
	対象外	8	3	2			3		
車両単独	自動車	4						4	
	バイク・原付	1			1				
人对車両	自転車	5							5
	自動車	47							47
	対象外	4							4
	バイク・原付	1							1
	歩行者	1		1					

「第1当事者」とは、交通事故に関係した者のうち、過失(違反)が最も重いものをいい、過失(違反)同程度の場合は、被害の軽いものをいう。  
「第2当事者」とは、交通事故に関係した者のうち、過失(違反)が軽いものをいい、過失(違反)同程度の場合は、被害の重いものをいう。

## データ出典:

・死傷者数等合計  
「交通年鑑」(兵庫県警察本部発行)

## ・令和元年事故類型(第1当事者vs第2当事者)[件]

ひょうごオープンデータカタログ(兵庫県企画県民情報企画課)

<http://open-data.pref.hyogo.lg.jp/>

※上記HP中、兵庫県警察本部交通企画課担当の「交通事故統計情報(2020/04/01 12:52:19更新)」を基に、事務局にてクロス集計を行った。

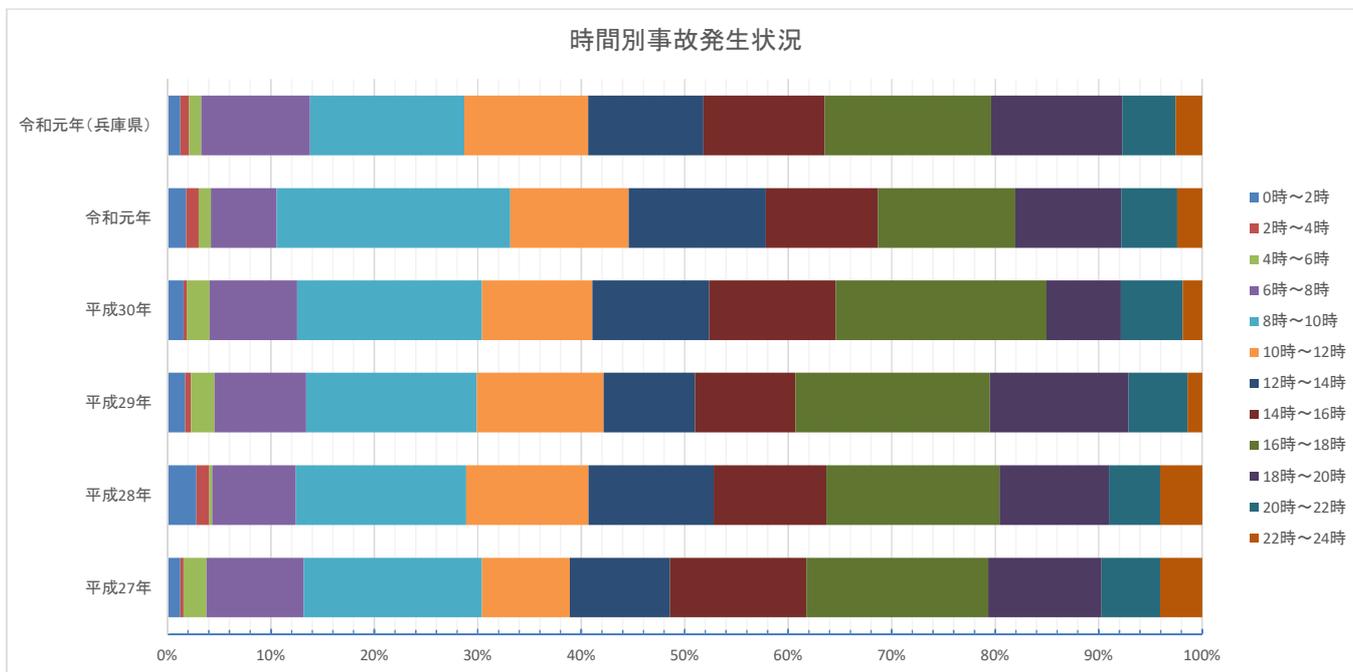
死傷者数等合計（再掲）

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和元年 (兵庫県)
死者数[名]	0	1	0	0	1	138
傷者数[名]	383	380	404	378	382	27,501
事故発生件数[件]	319	322	351	319	332	22,896

時間別事故発生状況[件]

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和元年 (兵庫県)
0時～2時	4	9	6	5	6	287
2時～4時	1	4	2	1	4	191
4時～6時	7	1	8	7	4	269
6時～8時	30	26	31	27	●21	2,409
8時～10時	55	53	58	57	○75	3,409
10時～12時	●27	38	43	34	38	2,746
12時～14時	31	39	31	36	44	2,548
14時～16時	42	35	34	39	36	2,689
16時～18時	56	54	66	65	44	3,677
18時～20時	35	34	47	●23	34	2,902
20時～22時	18	16	20	19	18	1,180
22時～24時	13	13	5	6	8	589
計	319	322	351	319	332	22,896

※各年の兵庫県の傾向と比較して大きな値の前に「○」、小さな値の前に「●」を記した。これらは「統計学上2.5%以下の確率で見られない値」である。以降同様。



令和元年の死者数及び傷者数は共に横ばいとなった。  
 平成27年～令和元年の5ヶ年の芦屋市の傾向は兵庫県の傾向と同様、「8時～10時」及び「16時～18時」の時間帯で事故が頻発している。  
 一方、令和元年の芦屋市での事故発生件数を「平成27年～令和元年の5ヶ年の芦屋市の傾向」および「令和元年の芦屋市及び兵庫県の傾向」の観点から統計解析すると、「『8時～10時』は珍しいと言えるほど非常に多い。『6時～8時』は珍しいとまでは言えないが十分少ない」との結果が得られた。「16時～18時」の時間帯の芦屋市での発生件数を令和元年のみで比較すると2位タイの発生件数だが、平成27年～令和元年の5ヶ年の発生傾向と比較すると低い値を示している。

## 高齢者の安全確保

「第1当事者」とは、交通事故に関係した者のうち、過失（違反）が最も重いものをいい、過失（違反）同程度の場合は、被害の軽いものをいう。

「第2当事者」とは、交通事故に関係した者のうち、過失（違反）が軽いものをいい、過失（違反）同程度の場合は、被害の重いものをいう。

高齢者関係事故（65歳以上）

兵庫県

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和元年
市内交通事故件数[件]	319	322	351	319	332	22,896
高齢者関係事故件数[件]	111	116	128	124	130	8,057
事故全体に占める 高齢者関係事故件数の割合[%]	34.8%	36.0%	36.5%	38.9%	39.2%	35.2%
高齢者第1当事者事故件数[件]	68	67	83	77	82	5,210
高齢者関係事故に占める 高齢者第1当事者事故件数割合[%]	61.3%	57.8%	64.8%	62.1%	63.1%	64.7%
高齢者関係事故に占める高齢運転者数【第1当事者】[人]			74	71	82	
死者[人]	0	1	0	0	1	76
傷者[人]	63	71	76	81	72	4,991
高齢者人口[人]	26,036	26,584	26,934	27,390	27,662	1,591,000
高齢者人口1千人当たり の高齢者関係事故件数[件]	4.3	4.4	4.8	4.5	4.7	5.1
高齢者人口1千人当たり の高齢者死傷者数[人]	2.4	2.7	2.8	3.0	2.6	3.2

(\* : 交通年鑑データ未公表)

○ 高齢者関係事故：第1当事者又は第2当事者が高齢者の交通事故

○ 高齢者人口：

【芦屋市】：各年度9月30日現在の男女65歳以上人口

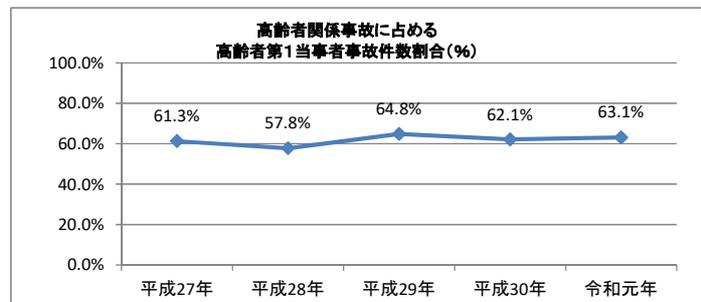
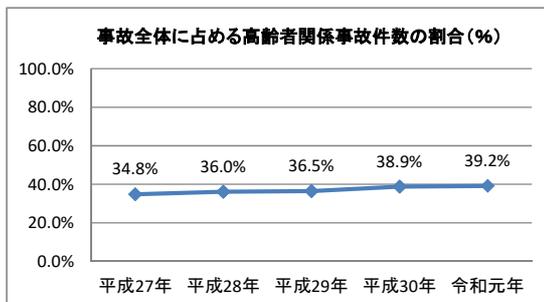
(cf. 芦屋市住基統計行政区別・年齢別人口調べ)

【兵庫県】：令和元年10月1日現在の男女65歳以上人口

(cf. 総務省統計局2020年4月14日公表「第3表 都道府県、年齢(5歳階級)、男女別人口一総人口(2019年10月1日現在)」)

高齢者に対する交通安全教育実施回数・参加者数

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
実施回数[回]	1	1	1	1	1
参加者[人]	22	23	80	79	22



芦屋市における事故全体に占める高齢者の割合は上記のとおりであり、一貫して4ポイント程度芦屋市の方が兵庫県より高い値<sup>\*</sup>を示している。

高齢者関連事故件数は増加傾向があるものの、「高齢者関連事故件数」と「高齢者人口」との強い相関性を踏まえると、主な原因としては、人口に占める高齢者数の増加と推定される。

今後の高齢化社会が進むことを踏まえ、高齢者への交通安全教育を充実させる必要があると考えられる。

※：cf. 『令和元年 兵庫の交通（統計資料）』，（一社）兵庫県交通安全協会，令和2年4月

令和元年 事故類型(第1当事者・第2当事者)[件]

年齢 (第1当事者)	年齢 (第2当事者)	当事者種別 (第1当事者)	当事者種別(第2当事者)						
			合計	自転車	自動車	原付・ バイク	物件等	歩行者	対象外
高齢者 (65歳以上)	高齢者 (65歳以上)	自転車	3		2			1	
		自動車	13	4	2	2		5	
	65歳未満	自転車	4		2	1		1	
		自動車	59	11	26	14		8	
		原付・バイク	1		1				
	該当なし・不明	自転車	1						1
		自動車	1				1		
65歳未満	高齢者 (65歳以上)	自転車	6	1	2			3	
		自動車	40	7	15	8		10	
		原付・バイク	1	1					
不明		対象外	1	1					

データ出典:

ひょうごオープンデータカタログ(兵庫県企画県民部情報企画課)

<http://open-data.pref.hyogo.lg.jp/>

※上記HP中、兵庫県警察本部交通企画課担当の「交通事故統計情報(2020/04/01 12:52:19更新)」を基に、事務局にてクロス集計を行った。

# 子どもの安全確保

子ども関係事故（15歳以下）

兵庫県

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和元年
市内交通事故件数[件]	319	322	351	319	332	22,896
子ども関係事故件数[件]	15	21	21	14	22	1,058
事故全体に占める子ども関係事故件数の割合[%]	4.7%	6.5%	6.0%	4.4%	6.6%	4.6%
子ども第1当事者事故件数[件]	4	5	8	1	3	421
子ども関係事故に占める子ども第1当事者事故件数割合[%]	26.7%	23.8%	38.1%	7.1%	13.6%	39.8%
死者[人]	0	0	0	0	0	1
傷者[人]	20	30	25	20	34	1,722
傷者（第1当事者）[人]	3	4	7	0	0	*
傷者（第2当事者）[人]	9	17	13	13	12	*
子ども人口[人]	13,660	12,562	13,287	13,109	12,893	683,000
子ども人口1千人当たりの子ども関係事故件数[件]	1.1	1.7	1.6	1.1	1.7	1.5
子ども人口1千人当たりの子ども死傷者数[人]	1.5	2.4	1.9	1.5	2.6	2.5

(\*: 交通年鑑データ未公表, -: データ非公開)

○子ども関係事故：第1当事者又は第2当事者が子どもの交通事故

○子ども人口：

【芦屋市】：各年度9月30日現在の男女15歳以下人口

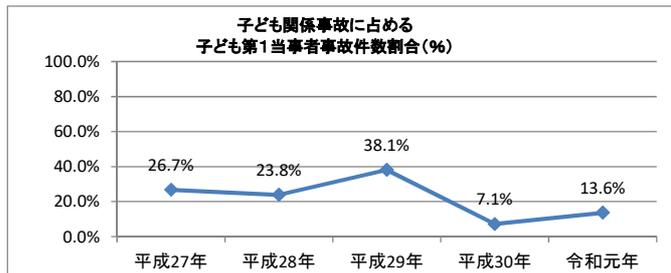
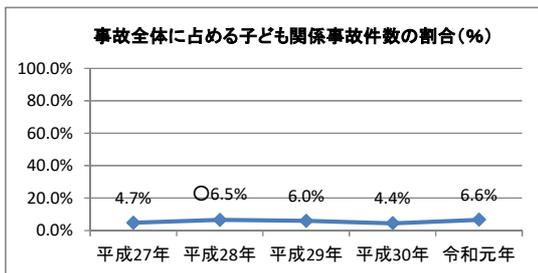
(cf. 芦屋市住基統計行政区別・年齢別人口調べ)

【兵庫県】：対象年度10月1日現在の男女14歳以下人口

(cf. 「第3表 都道府県、年齢(5歳階級)、男女別人口—総人口(2019年10月1日現在)」, 総務省統計局, 2020年4月14日)

## 子どもを対象とした交通安全教室の推進

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年	参加人数[人]
幼稚園[回]	18	15	16	16	15	(児童) 2,455人 (保護者) 277人
保育所・園[回]	23	27	25	27	25	
小学校[回]	14	16	16	18	16	1,498
中学校[回]	5	3	3	3	3	1,070
特別支援学校[回]	2	1	2	2	2	340
高等学校[回]	0	0	0	1	0	0
計	62	62	62	67	61	5,640



令和元年は平成30年より関係事故件数が8件増加し、22件となった。

前年度比で言えば約57.6%増であるものの、5ヶ年の傾向を踏まえると劇的な増加というよりはむしろ各年での変動の範囲内と考えられる。

## 歩行者の安全確保

### 歩行者関係事故

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
市内交通事故件数[件]	319	322	351	319	332
歩行者関係事故件数 [件]	40	62	54	52	58
事故全体に占める 歩行者関係事故の割合[%]	12.5%	○19.3%	○15.4%	○16.3%	○17.5%
死者[人]	0	1	0	0	0
傷者[人]	41	61	55	56	59
傷者（第1当事者）[人]	4	0	1	2	*
傷者（第2当事者）[人]	35	60	53	49	*

### 兵庫県

令和元年
22,896
2,657
11.6%
48
2,717
*
*

(\* : 交通年鑑データ未公表)

### ○歩行者関係事故・・・第1当事者又は第2当事者が歩行者の交通事故

#### 自転車と歩行者の交通事故件数

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
事故件数[件]	5	14	7	7	4
自転車(第1当事者)対 歩行者(第2当事者)[件]				7	2
歩行者(第1当事者)対 自転車(第2当事者)[件]				0	0

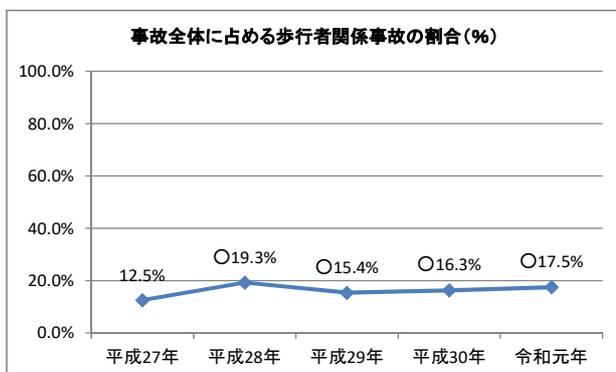
### 兵庫県

令和元年
*
*
*

(\* : 交通年鑑データ未公表)

### ゾーン30実施エリアにおける事故件数（速度違反が要因の事故）

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
事故件数[件]	0	0	0	0	0



事故全体に占める歩行者関係事故件数割合は横ばいで2割弱である。兵庫県下の歩行者関係事故件数割合は10～11%であること、兵庫県の発生割合を元に比率検定を行った結果<sup>\*</sup>を踏まえると、兵庫県と芦屋市とでは傾向が明らかに異なる。

<sup>\*</sup>芦屋市の歩行者関係事故件数割合が兵庫県と同様の傾向を示すと仮定した場合、上表で**太字**となっている各数値が生じる確率はおよそ0.32%以下との計算結果が出た。

# 自転車の安全確保

## 自転車関係事故

兵庫県

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	兵庫県 令和元年
市内交通事故件数[件]	319	322	351	319	332	22,896
自転車関係事故件数[件]	87	103	114	101	91	5,716
事故全体に占める 自転車関係事故の割合[%]	○27.3%	○32.0%	○32.5%	○31.7%	27.4%	25.0%
人对自転車[件]	5	14	7	7	4	*
自転車対車両[件]	80	87	101	92	86	5,364
自転車単独[件]	2	2	6	2	0	*
自転車第1当事者事故件数[件]	21	42	41	34	27	1,869
自転車関係事故に占める 自転車第1当事者事故件数割合[%]	●24.1%	○40.8%	36.0%	33.7%	29.7%	32.7%
(乗用中)死者[人]	0	0	0	0	0	
(乗用中)傷者[人]	87	89	113	102	*	
(乗用中)計[人]	87	89	113	102	*	

(\* : 交通年鑑データ未公表)

### ○自転車関係事故・・・第1当事者又は第2当事者が自転車の交通事故

#### 第1当事者事故件数(違反別で主なもの)

兵庫県

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	兵庫県 令和元年
通行区分[件]	2	0	2	1	1	*
一時不停止[件]	2	0	4	6	7	*
信号無視[件]	3	4	3	5	5	*

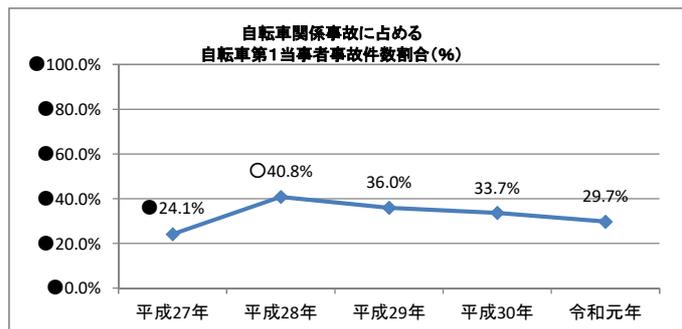
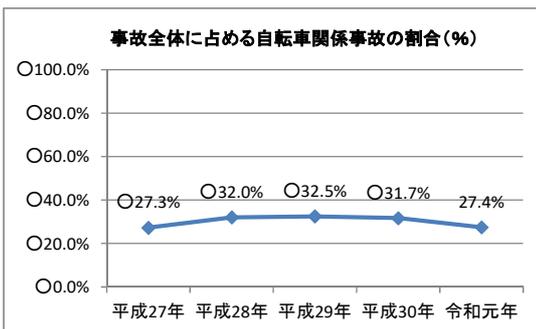
(\* : 交通年鑑データ未公表)

#### 自転車教室参加人数

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年
参加者[人]	39	21	14	53	47

#### 自転車交通安全教室実施状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年	参加者[人]
小学校[回]	8	8	8	8	8	756
中学校[回]	5	3	3	3	3	1,070
高等学校[回]	0	0	0	1	0	0
計	13	11	11	12	11	1,826



事故全体に占める自転車関係事故の割合は約27～33%であり、約20～25%である兵庫県の傾向とは異なる。事故の内訳として、自転車対車両の事故件数割合が9割を占めている。

また、令和元年の自転車関係事故件数(91件)は平成30年から約1割減少している。ただし、平成27年～令和元年の5ヶ年の傾向を踏まえると、平成30年と比較して劇的な減少とまでは言えない。

今後も継続して自転車利用者への啓発・教育の充実が必要と考えられる。

## 生活道路における安全確保

生活道路における交通事故件数

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
市内交通事故件数[件]	319	322	351	319	332
生活道路における事故件数[件]	191	198	216	201	189
事故全体に占める生活道路事故件数の割合(%)	59.9%	61.5%	61.5%	63.0%	56.9%

## 幹線道路における安全確保

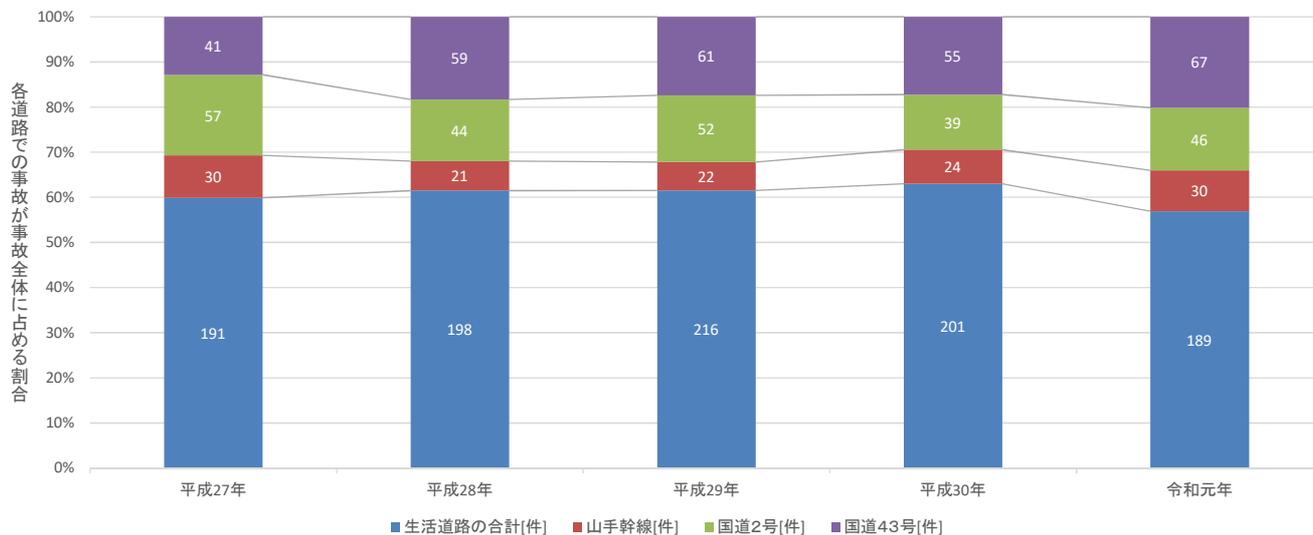
主要幹線道路における交通事故件数

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
山手幹線[件]	30	21	22	24	30
車両相互(追突)[件]				7	10
自転車対車両[件]				6	3
国道2号[件]	57	44	52	39	46
車両相互(追突)[件]				13	15
自転車対車両[件]				12	10
国道43号[件]	41	59	61	55	67
車両相互(追突)[件]				23	26
自転車対車両[件]				13	16
合計[件]	128	124	135	118	143
事故全体に占める主要幹線道路事故件数の割合(%)	40.1%	38.5%	38.5%	37.0%	43.1%

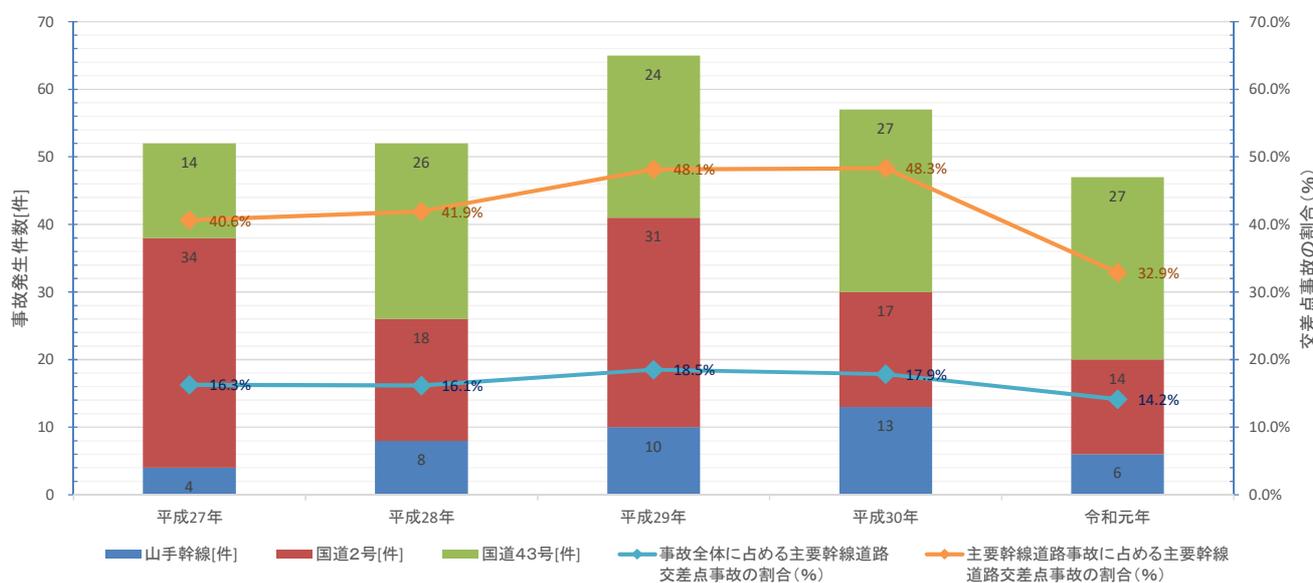
主要幹線道路交差点事故件数

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
山手幹線[件]	4	8	10	13	6
国道2号[件]	34	18	31	17	14
国道43号[件]	14	26	24	27	27
合計	52	52	65	57	47
事故全体に占める主要幹線道路交差点事故の割合(%)	16.3%	16.1%	18.5%	17.9%	14.2%
主要幹線道路事故に占める主要幹線道路交差点事故の割合(%)	40.6%	41.9%	48.1%	48.3%	32.9%

生活道路および主要幹線における事故発生傾向  
(各件数は棒グラフ中に記載)



主要幹線事故に占める交差点事故の件数(左軸)および割合(右軸)



平成27年～令和元年までの事故発生件数のうち、約4割を主要幹線（国道2号、国道43号および山手幹線）が占める。  
(市認定路線の道路延長合計：約222km<sup>※1</sup>、主要幹線の道路延長合計：約7km<sup>※2</sup>)

また、令和元年の3路線の事故発生傾向として、国道2号はほぼ5ヶ年平均に近い値（平均値：48）だったが、国道43号および山手幹線ではそれぞれ5ヶ年平均より高い。

事故全体に占める主要幹線道路交差点事故の発生割合が概ね14～18%であることから、主要幹線道路の交差点への事故対策が望ましい。

※1：cf. 平成29年度芦屋市議会第60号議案（平成29年9月4日提出，平成29年9月26日可決）

※2：(株)パスコ製「PasGal for LGWAN」の距離計測機能を用いた概算値

## 重視する視点に特化しない包括的な安全確保

交通事故に対する救急出場件数

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
救急出場[件]	277	280	264	279	253

応急手当講習等受講人員

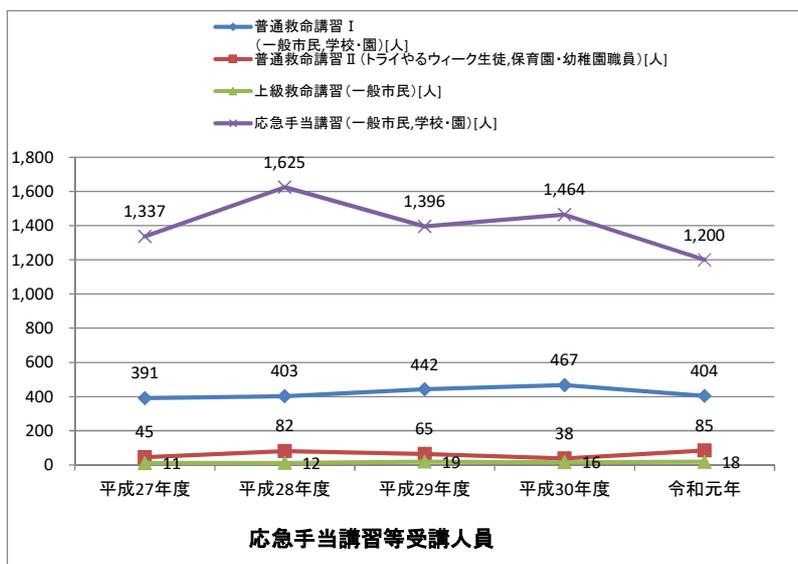
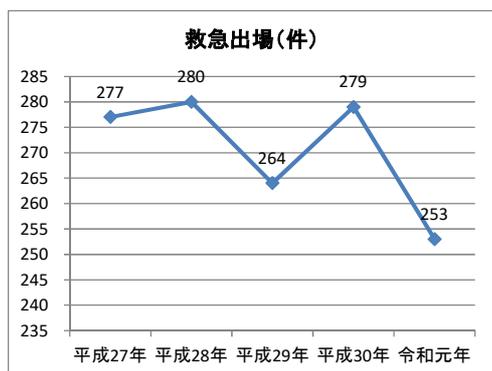
対象\年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年
普通救命講習Ⅰ (一般市民, 学校・園)[人]	391	403	442	467	404
普通救命講習Ⅱ (トライやるウィーク生徒, 保育園・幼稚園職員)[人]	45	82	65	38	85
上級救命講習(一般市民)[人]	11	12	19	16	18
応急手当講習(一般市民, 学校・園)[人]	1,337	1,625	1,396	1,464	1,200
応急手当普及員講習(消防団員)[人]	9	—	5	—	—
合計[人]	1,793	2,122	1,927	1,985	1,707

踏切道における交通事故死傷者

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
事故件数[件]	1	0	0	0	0
死者[人]	0	0	0	0	0
傷者[人]	1	0	0	0	0

兵庫県

令和元年	3
------	---



令和元年の交通事故に対する救急出場件数は5ヶ年平均と比較しても減少が見られた。

応急手当講習(一般市民, 学校・園)の受講者は5ヶ年平均と比較して減少が見られたものの、ふつう救命講習等は横ばいの傾向を示した。